

まちづくり交付金（河内国分駅・JR 高井田駅周辺地区）

事後評価委員からの意見具申【抜粋】

大和川親水公園事業により、これまで大和川の治水対策上の懸案であった「堤外民有地」問題が解消したとともに、360度ほぼ水平の眺望が楽しめる広大な公園が完成した。散歩コースやグランドゴルフなどで活用されており、地域の交流の場として機能している。

大和川親水公園の堤防は、かつては「風戸堤」「新町裏堤」などと呼ばれ、江戸時代の初め頃には築造されていたと考えられている。この堤の築造により、「新町」という新しい町が誕生した。堤の北側には「国分船」の船着場が設けられていた。これにより、国分の地は、大阪と奈良との中間点、陸路と水路の要衝として繁栄していった。このような歴史的背景を後世に伝えていくべき。

この「風戸堤」から大和川の上流側の風景は、かつて頼山陽が「河内嵐山よ」と賞賛し、その門弟であった柘植葛城も「小嵐山よ」と称えたと史料に残っている。葛城の漢詩の中には度々この辺りの風景が登場する。またこの風景は「国分村八景図」にも画かれている。「河内嵐山」と継承されるこの風景は、「文化的景観」に指定されてもおかしくない景観である。

2011年に、「柏原観光まちづくりビジョン委員会」は「電車の走る風景“柏原八景”」を選定したが、そのうちの 하나가、大和川親水公園からJR高井田駅付近を望む風景である。春はパステル色に、秋は錦絵の屏風のようになる山を背景に電車が走っていく風景は、電車の見える公園としてはあまり知られていないかもしれないが、のんびりと電車が行き来するのを見てすごしてほしい公園である。

大和川親水公園は、近鉄河内国分駅およびJR高井田駅から徒歩5分程度の距離にあり、大変利便性が高い。また国道や電車から一望できるため、極めて視覚的にインパクトの強い場所である。今後、地域のレクリエーションの場として散歩や花壇づくり、運動、イベントなど、多彩な用途に用いられる可能性を秘めていると思われる。

大和川親水公園がある高水敷と、大和川で常時水が流れている低水路の間には水辺帯がある。ここは本川の水位によって絶えず冠水したり干上がったたりする。そこは冠水の程度によってさまざまな種類の河川性の植物が生え、それを餌や隠れ家にする昆虫や鳥が住み

ついている。今後は、水辺帯を含む大和川の自然度を高めるさらなる方策の検討をお願いする次第である。

大和川本川には広い砂洲がある。砂洲は本川の水流の影響を強く受けるため、増水のたびに測流の位置や大きさが変わり、流れが本川から切り離されて池状になることもある。このような小水域には、稚魚や昆虫の幼虫などが姿を見せるはずである。これらの小さな生きものは子どもたちでも十分捕えたり観察できる。今後、子供たちを含めた市民が大和川の生態系と共存し、楽しみ、学び、維持していくように考え、議論するきっかけになることを希望する。

地元の小学校の環境学習や郷土学習の一環として、国土交通省が推進する「水辺の楽校プロジェクト」に、この大和川親水公園を登録すればよいのでは。（大和川流域における「水辺の楽校」は、堺市と奈良県佐保川町が登録している）

大和川資料館（あるいは水族館・博物館など）が近辺に建設されれば、アクセスの利便性や時流などからかなりの利用が見込まれるのでは。

地元地区の祭りにおいて、各地区の地車を一同に集めて披露する場として活用されているが、今後はジョギングや体操などの健康増進のための取り組みの場として活用していけたらいいと思う。